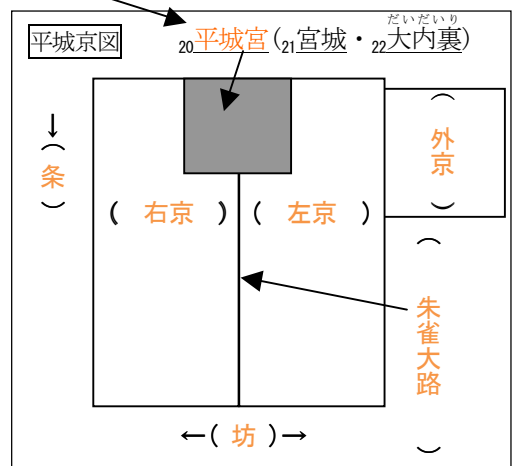
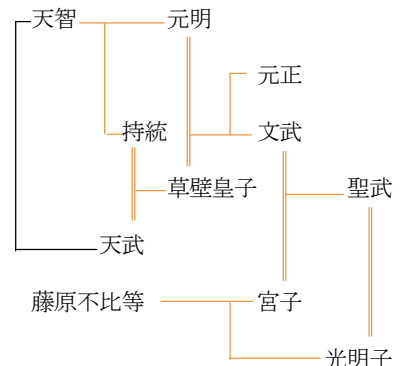


(2) 遣唐使として派遣された人の中には、唐の官職についた人もいた。



東アジアとの関係

35唐…36遣唐使 (ほぼ20年ごと 奈良時代に6回)

のち4隻編成に→「よつのふね」 約500名

従来の37北路から南路へ(より危険)

〈例〉38山上憶良、39藤原清河(不比等の孫)、

40阿倍仲麻呂 (留学生→唐の玄宗に仕える)、

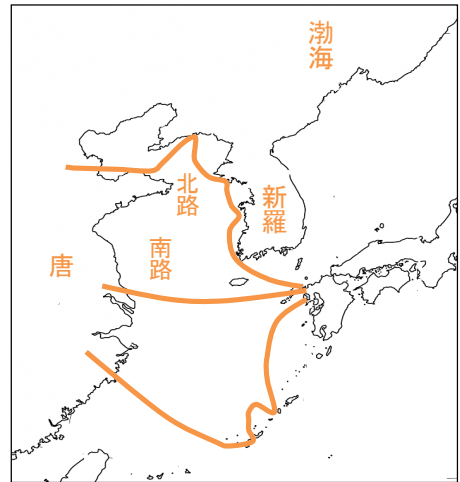
41井真成 (留学生。2004年に墓誌が公開される)

42新羅…新羅使・遣新羅使が頻繁に往来

日本は新羅に朝貢を要求→何度か緊張状態に

43渤海…高句麗の遺民と靺鞨族が建国(698)

渤海使・遣渤海使が往来 徐々に貿易中心に(毛皮・人参など)

公地公民制の動揺

農民の困窮 〈例〉44貧窮問答歌 (『万葉集』)…45山上憶良 作 731年頃

原因：不十分な収入…46口分田の不足(←人口の増加など)、多い不作、天候不順

過重な負担 〈例〉調・庸などの課税、造都・遠征、公出挙の拡大

☆47行基 (法相宗)の活動 8世紀前半

民間布教と社会事業(用水・交通施設)、農民の支持 ←律令(僧尼令)違反として弾圧

農民の抵抗 ①48偽籍 〈例〉年齢を偽る、男を女として登録する

②本籍地から逃げる 49浮浪…移住先で登録され、庸・調などを収めている

50逃亡…把握されていない(行方不明)

③免税身分になる 〈例〉資人(上級貴族の従者)、僧尼

無許可の僧侶=51私度僧の増加

公地公民制の動揺 口分田の荒廃・人口増加 →口分田の不足・班田収授の実施が困難

→さらなる農民の困窮→調庸の滞納・未納・品質の低下、兵士の弱体化

※藤原不比等没(720)